

2023年度
第8回 理事会議事録

2024年 3月 19日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2023年度 第8回理事会議事録

1. 日 時 2024年 3月 19日 (火) 13:00～16:50
2. 場 所 全構協 第一会議室
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 13名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 審議事項
 - 第1号議案 2024年度 予算(案)承認の件
 - 第2号議案 永年勤続表彰対象者承認の件
 - (6) 報告事項
 - 1) 凶面問題対応について
 - 2) 委員会等活動状況報告
 - ① 中期ビジョン検討委員会
 - ② 人材育成委員会
 - ③ 技術委員会
 - ④ 運営委員会
 - ⑤ 技術者資格検討WG
 - ⑥ 建築鉄骨技能検討WG
 - 3) 一次加工工場の品質管理について
 - 4) 鉄骨技術研究開発助成対象案件確認について
 - 5) 特定技能外国人材対応について
 - 6) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告
 - 7) 青年部意見交換会 (実施後アンケート) について
 - 8) その他 (①物流関係<見積り条件書>について
②品質管理責任者講習会について)
 - (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2024年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (8) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は大島理事が欠席し 13 名の理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「本日は、本年度最後の理事会です。委員会、WG の活動も仕上がってきていると思うので、よろしくお願ひします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2023 年度第 7 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 審議事項

第 1 号議案：2024 年度 予算(案)承認の件

2024 年度 予算(案)承認の件について、議案書[理 23-8-議 1] (p3-6)にそって、平井総務部長から下記内容が説明された。

- ・ 2023 年度予算は、各種委員会活動、次世代経営研修等の事業を織込みつつ、収支としては、50 周年記念事業費分相当で、約 2,100 万円のマイナスで策定。
- ・ 2023 年度見込は、収入面では検査技術者の更新講習増、費用面では 50 周年記念事業関係のプラスあるも、技術事業の開発助成金の減、会員共益の次世代研修関連費用の大幅減があり、経常増減として約 1,360 万円のプラス、対予算では、プラス 3,520 万円と考えている。
- ・ 2024 年度当初予算は、概ね 2023 年度並みの事業規模を前提として策定。
- ・ 事業関係の費用では、品質管理責任者講習会関連費用、人づくり研修関連費用を織込んでいる。また、事業計画で謳った、中期ビジョン対応、凶面問題、物流課題等への取組みについても、会議費を中心に予算化している。
- ・ 2024 年度予算の経常増減としては、約 1,980 万円のマイナス、対 2023 年度予算では 180 万円のプラスという内容で策定している。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認された。

第 2 号議案：永年勤続表彰対象者承認の件

2024 年度 永年勤続表彰対象者承認の件について平井総務部長より、議案書 (P7-9) により説明された。

2024 年度の表彰対象者は、各都道府県からご提出いただいた名簿を前提として整理し、役員 25 名、事務局 4 名の合計 29 名となった。

本議案に対する質問、意見等はなく、原案どおり承認された。

(6) 報告事項

1) 図面問題対応について

図面問題対応について、活動内容については秋山理事から、要望書の内容については、別冊資料にそって小貫専務から説明され、確認された。

- ・ 前回2月の理事会で説明した要望書第1稿から、ご指摘の内容を踏まえ第2稿を作成、その後弁護士事務所とも協議、推敲を重ね第3稿を提示させていただいた。
- ・ 本編の要望書に、要望先毎の鑑文を付けて提出する予定。
- ・ 基本的な内容は、2月の理事会時と概ね同じ内容だが、書き出しの業界環境説明、用語の定義、法令適用の考え方、図面問題の詳細整理、各要望先への要請内容等について加筆と修正を行った。
- ・ 要望書の提出先として、監督官庁では国交省と経産省。国交省では、ゼネコンを管轄している不動産・建設経済局建設業課、経産省関係では、中小企業庁を対象として検討を進めたい。また、元請関係では、日建連、全建といったゼネコン団体とゼネコン個社が対象となる。設計者関係では、JSCAを検討。まずは、三役を中心として、監督官庁とゼネコン団体とJSCAを訪問したい。その上で、より裾野を広げるという意味で、全構協の理事及び各県組合役員のご協力をいただき、ゼネコン個社、各地域の行政、団体を回っていただくことを検討したい。
- ・ 今後の対応のスケジュールとしては、労務費転嫁等周辺環境が進展していることもあり、極力早い時期に要望書提出に繋げたい。一方、1月の理事会でも要請させていただいた各県理事長の同意を前提とした連携書を携えて訪問することを考えており、こちらを速やかに回収した上で、4月の後半からは実際の要望書提出活動に入りたい。まずは、行政と中央組織を訪問の上、GW明け以降、理事の皆様を含め、より広く展開を行いたい。
- ・ 要望書の内容としては、用語の中で、製作図の定義についてご指摘があり修正することとした。
- ・ 各県の同意書の回収については、理事のご協力もいただきながら、4月12日を目標として、早急に進めることとした。

2) 委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会

中期ビジョン検討委員会について、別冊資料にそって、佐藤理事から説明され、確認された。

- ・ 中期ビジョン（ありたい姿）として「信頼で人と社会を支える」を掲げ、パーパスを「人が集い人が育つ産業」と「安心・安全な「まち」をつくる」と整理した。
- ・ このビジョンとパーパスを踏まえ、「安定した経営基盤を確立する」、「創出へ弛まぬ挑戦をする」、「ウェルビーイングで楽しく働く」の3つミッションと各ミッションに対する4つの活動項目を整理した。

- ・今後に向けては、今回委員会として整理した内容を具体的な活動に繋げていくことを検討する必要がある。

② 人材育成委員会

人材育成委員会について、委員会の活動内容について大原総務部部長から、次世代経営研修の実施状況については、滝本総務部課長から、説明され、以下の内容が確認された。

- ・「人づくり研修」を実際に行うコンサルについては、「エフアンドエム」という会社を第一候補として選定を進めている。3月末には最終1社に絞り込み予定。
- ・「人づくり研修」の日程、開催場所については現在調整中であり、4/11開催予定の全国事務局長会議で報告予定。
- ・次世代経営研修が全国9支部で実施され、事後アンケート結果が報告された。受講者は約220名、グレード別、受講者の役職別、講習内容に関するアンケート結果等について説明された。

③ 技術委員会

技術委員会について、議案書(p13-15)にそって、佐藤委員長より内容が説明され、確認された。

- ・技術委員会として取り組んだ溶接施工WGの活動内容、CAD利用状況調査、溶接ワイヤーミルシート提供関連、JASS6の次期改定について報告された。

④ 運営委員会

運営委員会について、議案書(p16-22)にそって、妹尾委員長より、支部の位置付けと物流問題について内容が説明され、確認された。

[支部の位置付け]

- ・支部の位置付けの明確化に関しては、支部の設置目的、支部長の選任、支部長の責任と権限等について整理を行った。また、今回の検討し際し、全構協理事会への提言、各支部への提言、支部運営における付記事項も合わせて整理した。
- ・支部長の任期については各支部の判断ではあるが、全構協の活動の継続性等の観点から、2期4年以上が望ましいという表現としている。
- ・支部長の選任、責任、権限の部分を中心に、表現方法等を含め、あらためて三役会で協議の上、本内容の扱いを整理することとした。

[物流問題]

- ・物流問題について、関係先への周知用としてチラシを作ることを検討している。本日のお見せしているものは、仮のイメージ版。
- ・九州支部から提案された「輸送に関わる見積り条件書」の情報も反映させて最大公約数的な内容を整理するとともに、どこに、どの様な方法で、周知を進めていくのかについて、検討する必要がある。

- ・更に、必要な経費については、キャンセルポリシーの様な、具体的な金額の整理をすべく検討を行っている。但し、地域毎の状況の違いもあるので、全国一律これだというものではなく、考え方を整理し各地域で参考にしていただける様なものにしたい。
- ・九州支部からの提案書式については、全構協九州支部として使用することを前提として了解とした。

⑤ 技術者資格検討 WG

技術者資格検討 WG の活動報告書について、別冊資料にそって、出雲リーダーより、以下の内容が説明され、確認された。

- ・歴史的経緯、過去の検討の状況等の把握、国交省へのヒアリング内容、WGとして提言等が説明された。
- ・国交省へのヒアリング内容等も踏まえ、まずは業界の認知度向上が重要であることが報告された。各地区における地方整備局との繋がり強化の機会を設定すること等が、活動報告書の中でも提案されている。

⑥ 建築鉄骨技能検討 WG

建築鉄骨技能検討 WG の成果報告書について、別冊資料にそって、秋山リーダーより、以下の内容が説明され、確認された。

- ・建築鉄骨技能検討 WG の活動内容と成果資料について説明された。
- ・成果資料として、①学科試験の出題項目 ②実技試験実施案 ③実技試験 試験体 ④実技試験審査項目及び基準 ⑤実技の筆記試験項目 を整理した。

3) 一次加工工場の品質管理について

一次加工工場の品質管理について、議案書 (p23)にそって、対応の方針については永井会長から、活動の内容については新村技術部長から説明があり、下記内容が確認された。

- ・一次加工工場の品質管理の問題については、2月の理事会で、検討WGを設置して対応して行くことをご了解いただいたことを踏まえ、検討を進めていく。
- ・2024年度以降の具体的な活動として、問題の有無を含めた品質管理体制の実態把握を行った上で、本検討の必要性、品質管理を行う場合の条件等について、学識者等にもご参加いただいたWGを設置し検討を行う。

4) 鉄骨技術研究開発助成対象案件確認について

鉄骨技術研究開発助成対象案件について、議案書 (p24-33)にそって、新村技術部長から説明があった。

- ・今回応募型については、申請がなかったため、全構協実施型のみとなる。

- ・2023年度の活動報告として、溶接施工試験の結果が報告された。この結果を踏まえ、機械試験等も実施の上、強度的にも問題がないことを確認していく予定。
- ・2024年度については、費用面を含め、計画に沿って研究開発活動を進めていくこととした。

5) 特定技能外国人材対応について

特定技能外国人材対応について、平井総務部長から説明された。内容は以下の通り。

- ・特定産業分野への追加検討については、分野追加が決まった等現時点で特に大きな変化はない。但し、省庁間の調整は終わっていると聞いており、徐々に確度は高まっている状況。
- ・経産省からは、分野追加が認められることを前提に、今後の体制、仕組み等について、検討を始めて下さいとのコメントがあった。

また、特定技能に関係する個別の組合の対応について、小貫専務より下記報告があった。

- ・新聞報道によると、個別の組合関係者が、特定技能に関する分野追加の要望を目的として、議員に同行して法務大臣を訪問したとの情報がある。この内容は事実の様だが、全構協とは無関係な動きであることを、ご了解いただきたい。

6) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について、議案書（p34）にそって、小貫専務より説明があり、確認された。

7) 青年部意見交換会（実施後アンケート）について

青年部意見交換会実施後アンケートについて確認された。

8) その他

①品質管理責任者講習会について

- ・品質管理責任者講習会の実施内容として、講習日数は半日短縮すること、更新講習は実施しないということが、教育センターで決定されたとの報告があった。

②「これからの公共建築物」冊子紹介

- ・日本鉄鋼連盟が作成した、「これからの公共建築物」という冊子について、紹介があった。以前も作成していたものだが、今回は環境（負荷）に関する情報を充実させた内容になっている。

鉄連としては、以前も行って、S造に関する説明会を行いたいとの意向がある模様。全構協としての対応については、今後検討予定。

③評価機関の評価料値上げの件

- ・前回理事会で説明した評価機関の評価料値上げについては、国交省の原案通りで決まったことが報告された。

④次期副会長、監事の選任の件

- ・1月の理事会において、次期副会長、監事の選任については、永井会長に一任することで、ご了解いただいた。3月の理事会でご報告する旨お伝えしていたので、本日も説明する。
 - ・次期の体制としては、副会長を3名体制とする方向で検討している。
 - ・大島副会長については、体調の問題があり副会長続投は難しいということが確認出来たので、他の方を検討することとする。もう少し時間がかかることになるが、ご了解いただきたい。
 - ・大竹副会長については、続投していただく方向でお願いすることとしたい。
 - ・副会長の内のひとは、山形県の副理事長である、板垣氏にお願いすることとした。
 - ・監事については、東京の理事長である吉岡氏と村上監事の2人で担っていただくこととしたい。
- 尚、各支部の役員選定については、全構協執行部人事が決定するまで待っていただきたいとお願いしていたが、各支部のご都合もあるので、明日以降進めていただく方向でお願いしたい。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2024年2月21日時点の構成員数は、前回報告時(2月21日)より9社減少し、2,160社であること等が、議案書(p44-48)により報告された。
会社都合で退会という会社も散見されるので、状況を確認しておく必要があるとの指摘があった。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2023年4月から2024年1月までの累計実績が329万トン、対前年89.2%となっている。

3) 2024年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p50)により確認された。

4) 支部報告

議案書により配布され、時間の都合により説明は省略された。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項等、予定された事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 竹	良 明
専務理事	小 貫	武
理 事	佐 藤	正 記
〃	三 浦	隆 宏
〃	秋 山	順 一
〃	寺 田	健 信
〃	柏 原	正 明
〃	出 雲	津 芳
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹
〃	五 月 女	久 和

理事総数 14名 うち出席者 13名 [欠席：大島副会長]
監事総数 2名 うち出席者 2名